

平成27年度  
第5回基本政策審議会資料

政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について

②歴史・文化、スポーツ

## 現状と課題

### 【国の動向】

- 国の「文化芸術振興に関する基本的な方針(第4次基本方針)」によると、地域における文化芸術振興は、鑑賞機会の充実や創造活動の支援、地域住民の芸術文化活動への参加促進、民間の非営利活動や文化ボランティアの促進で地域における多様な文化芸術活動の担い手の育成を図ることとしている。
- 国においては、スポーツ行政を総合的に推進するため、平成27年10月にスポーツ庁を設置し、従来からのスポーツ振興に加え、健康増進に資するスポーツの機会の確保、スポーツを通じた地域おこしへの支援など、多様な施策の展開を進める方針。2020年には、東京オリンピックも予定されている。

### 【文化施設や歴史資産の活用と郷土への愛着心】

- 岡山市の国指定史跡は18件で、政令指定都市では京都市に次いで2番目に多い。
- 人口当たりの博物館等の施設数は政令指定都市で3位だが、利用人数は3番目に少ない。
- 岡山城の入場者数は年間約20万人に対し、後樂園は66万人と3倍以上の開きがある。
- 市内には城下町・岡山をはじめ、古代吉備勢力の繁栄を伝える遺跡群、陣屋町、門前町や宿場町など地域それぞれが個性ある歴史や文化を持っているが、市民が身近に歴史・文化を感じられる場所と機会は少なくなっている。
- 平成26年、岡山城などの歴史文化ゾーンにおいて、現代アート作品を展示する社会実験を実施。期間中、約11万人が来場するなど、新たな魅力創出につながった。
- ⇒博物館等の文化施設や歴史資産の集積を生かしきれていないため、例えば、岡山城の価値を高め歴史を感じる場や市民憩いの場として城らしい空間づくりを進める、歴史・文化施設が集積する空間を体験や共感などの「コト」を提供する場として活用していくなど、総合的に活用することで岡山市の魅力を高め、国内外も含めて情報発信することが必要。
- ⇒地域の文化財や先人の努力などを学校教育に結びつけ、子どもの頃から歴史文化に触れる機会を増やし、郷土を愛する心を育てていく取り組みが必要。
- ⇒歴史文化資産を、地域の力によって改めて地域の魅力として浮かび上がらせる取り組みとともに、これらの資産を活用した、地域主体の取り組みを支援していく必要がある。
- ⇒歴史文化ゾーンの新たな魅力創出のため、現代アートによる芸術祭について、内容を充実させながら、継続した取り組みとする必要がある。

### 【芸術体験の充実】

- 平成25年度岡山市民意識調査では、1年間に文化芸術イベントに参加・鑑賞した人の割合は52.8%。国の「文化芸術立国中期プラン」では、2020年末の目標成果指標として、直近1年間に文化芸術を鑑賞したことがある者の割合を80%台としている。(2009年「文化に関する世論調査」で62.8%)
- 平成25年度岡山市民意識調査では、文化芸術のもたらす効果として期待することは、「人々の心がうるおい豊かになる」(60.9%)、次いで「子どもの心の成長に役立つ」(41.5%)となっている一方、「市のイメージが向上する」と回答した人は14.4%と低い。
- ⇒美術や演劇・音楽等の実物・実演を直接体験している市民が少ない傾向がある。生活の中で文化芸術に触れることや岡山の歴史等を学ぶ機会を増やすためにも、多くの人々が博物館等の文化施設を気軽に訪れ、岡山の歴史・文化がより身近になるような施策が望まれる。

### 【文化芸術発信のための担い手の育成】

- 「劇場、音楽堂などの活性化に関する法律」が施行され、これからの劇場等は、地域の文化芸術を継承・創造・発信する文化拠点としての役割を担うとされた。
- ⇒文化芸術施設が地域の文化芸術拠点となるには、文化ボランティアや創作活動を行う文化芸術団体や文化イベントを企画するNPO等の地域文化の担い手が育つための支援が必要。
- 2020年開催の東京オリンピックに向けた文化プログラムで、地域の文化資源を生かし都市の魅力を積極的に発信することが期待されている。
- ⇒文化芸術事業は、国際交流や観光客の誘致などに広がり、地域活性やまちづくりにつながると考えられるため、地域文化の担い手が育ち、創造性が発揮される文化振興施策が必要。

### 【生涯スポーツの環境】

- 岡山市の「成人の週1回以上のスポーツ実施率」の目標は、平成33年度65%であるが、平成20年度実施の「市民スポーツに関するアンケート」では47.6%となっている。
- 岡山市都市ビジョンの成果指標である「生涯スポーツ環境の満足度」の目標は、平成33年度の50%であるが、平成25年度市民意識調査によると17.2%と低い。
- ⇒生涯スポーツの環境の満足度が低下しており、いつでもどこでも気軽にスポーツに親しむ環境づくりにより満足度を向上させるとともに、スポーツに対する意識向上やきっかけづくりにより、岡山市の「成人の週1回以上のスポーツ実施率」を向上させる必要がある。

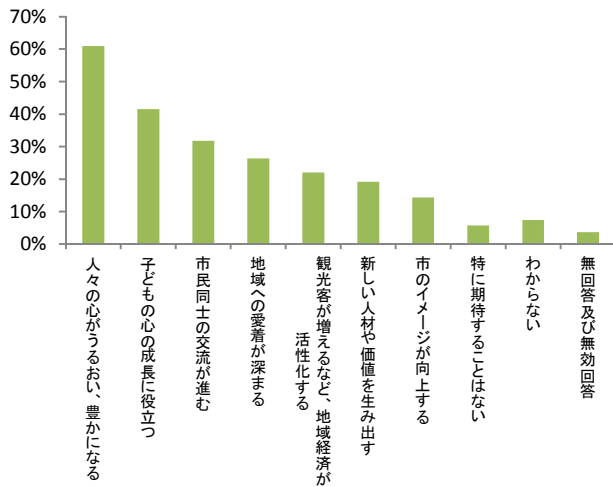
### 【トップチームと市民が一体となった活力の創造】

- 岡山市をホームタウンとするトップチームに、ファジアーノ岡山と岡山シーガルズがあり、観戦者数も年々増加傾向にある。
- ⇒岡山市をホームタウンとするトップチームと市民が一体となり、新たな活力を生み出し、夢と感動をもたらすとともに、岡山市のシティプロモーションに寄与する取り組みが必要。

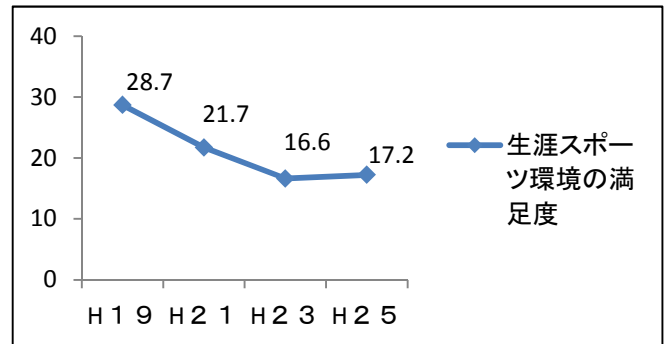
### 【大規模スポーツ大会等の誘致】

- 岡山市は、大規模なスポーツ大会の開催件数は年々増加しているが、中四国の交通の結節点という好位置にあり、さらなる開催件数増加の可能性を秘めている。平成27年からおかやまマラソンの開催、平成28年には全国高等学校総合体育大会、平成30年には全国中学校体育大会が岡山市で開催される予定であり、多くの方々が岡山市を訪れることで地域の活性化が期待される。
- ⇒岡山市が中四国の交通の結節点という好位置にありながら、大規模なスポーツ大会の開催を逃すことのないよう、誘致に向けた体制や必要な施設の整備などの施策が必要。
- 2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることに伴い、岡山市でも事前合宿地の誘致に向けた発信をすることが期待されている。
- ⇒2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、岡山市でも事前合宿地に向けた動きやスポーツに対するさらなる意識を高める必要がある。

文化芸術の振興に期待すること



「岡山市の生涯スポーツ環境の満足度」の推移



資料：岡山市民意識調査

## 政策展開の長期的な考え方

### ① 歴史・文化資産を活かし、新たな文化を創造するまちづくり

- ・岡山城、後樂園などの岡山市固有の財産を活用し、資源に磨きをかけ、都市の魅力を向上させるとともに、歴史・文化資源を現代アートなどの新たな文化芸術と融合させ、新たな文化を創造していく。これにより、国内外へ情報を発信し多くの人々が岡山を訪れ、交流し、岡山市の知名度とブランド力を向上させる。
- ・歴史・文化・芸術の振興により都市の魅力が高まり、岡山市に住むことを誇りに思う市民が増えるとともに、観光や国際交流にも効果をもたらす。
- ・地域住民が自ら地域の魅力を守り、資産を活用し、未来へ継承する活動を支援するとともに、歴史的由来等を紹介した看板「岡山歴史のまちしるべ」を活用することなどによって、郷土への誇りと愛着を育み、地域内外の人の交流につなげる。

### ② 心豊かに暮らし親しむ文化芸術の振興

- ・日常生活の中で文化芸術に触れる機会が増え、さらに、地域の文化芸術団体やNPO等の担い手が育っていくことで、多様で創造的な文化芸術活動が促進され、心豊かな市民による、活力あるまちづくりにつながる。
- ・特に、子どもから文化芸術を観たり体験したりする環境を整えることで、生涯にわたって文化芸術に親しむ習慣を醸成し、心豊かな市民が育つことにつなげていく。

### ③ 地域の活力と健康を育むスポーツの振興

- ・スポーツが市民に夢と感動を与えることに鑑み、スポーツの推進、とりわけ、岡山市のトップチームやトップ選手への支援を通じて、岡山市のスポーツ選手等の活躍を応援し、明日のアスリートの育成に繋げていくことのできるような社会的機運を高めることで、市民の一体感の醸成や活力ある都市の形成に寄与する。
- また、大規模なスポーツ大会の誘致体制の構築や施設の整備を行い、地域の活性化を図る。
- ・子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが生涯にわたって、「する・みる・ささえる」スポーツに親しむことができる環境を実現し、市民の生きがいと健康の増進を図ることで、健康で活力に満ちた長寿社会の構築につながる